

幼児教育の根本原理

靜 枝 譯

東テキサス州師範大學の練習學校長ヒツケット、同大學幼稚園長アユラルティ、ホーレン著幼児教育の第一章を譯したのである。吾々幼稚園關係者小學校初學年教師の參考となることが甚だ多いと思はれるから特に本誌に掲載する。

大人の生活に於ける多くの失敗、及還境に對する不適應は、幼年時代に於ける訓練の誤り、又は自己表現、自己啓發の好機の缺乏に多く歸因するは疑ふ可からざる事である。アドラー氏は其の著「神經體質」に幼兒は世界中最も抑壓されたる有機體なりといつて居る。子供は大人の氣まぐれや、怒や、其の欲する儘に服従し常に大人に抑壓されてゐる。此の爲に子供の心に取つて最も希望せらるゝ状態は、大人の状態である。大人は全力を有する獨立者、誰にも鞭たれたり、學校へやらされたりしない。従つて子供は遊戯に於て周圍の大人の生活に侵入し大人の眞似をする。

數十年前に行はれたる幼兒に關する考は幼兒は見せしむべし聞かしむべからずといふ古諺につきてゐる。社會は大人の爲に大人によつて造られたる場所で、子供時代はやがて結ばるべき果を思つて堪へ忍

ぶべき時期として考へられて居た。併し我々は今や教育の基礎は、子供の要求彼等の生活經驗に置かねばならぬ事を知り、又兒童の安寧の如何は國民の將來に重大なる關係を有するものなる事を熟知してゐる。

クリノ氏は次の如く述べてゐる。

我々が注意すべき事は、先生によつて子供が統御されるのでなく、子供が、自分で自分を統御する事である。又子供が如何に多く學ぶかといふ事よりも、寧ろ兒童をして學習の氣を起させる動機が大切なのである。又兒童はそれ自身の個性に基づかねばならぬ。そしてその中最も大切なものは自發と獨立である。又四五歳時代の團體生活は社會性を發達させ自分勝手の利己心を根絶させる爲に缺く可からざるものである。——總べて之等の事を我々が、認知する時は我々は至る所に於て幼稚園を用ひ且もつと厚くこれを使用しなかつた、その愚鈍さを怪しむであらうと

フレーベル氏は「人は後年に至つては百磅の力、否數百磅の力を以てしても爲し能はざる事を幼年時代には羽毛の如き輕き力を以て爲す事が出来る」と云つてゐる。

アメリカに於ける最初の幼稚園はフレーベル式であつて幼兒教育の基をなす原理基礎としてフレーベルの恩物・作業を、その使用に關する理論と共に認めてゐた。是等の學說原理は長年月の間に行はれた。併し後に至つて幼稚園の思慮深き教師は、此の材料を取扱ふには複雑なる筋肉の共同作用を要するので

ある。かゝる材料を子供に使用せしむる事の可否を論じ始めたのである。そしてつとよく子供を研究した結果、フレーベル氏のシンボリズムの學說—神性と的一致—恩物の使用も之れに基礎を置く所の此の學說は全く心理學的に有力なる根底の無いものなる事が解つた。それで最近幼稚園では此の學說を受け入れてない。併しフレーベルの恩物を排斥してゐるのではない。悦んで之れを娛樂や自由遊びに用ひてゐる。斯く恩物が使用せらるゝ時は、其の幼兒教育に於て有する唯一目的を達成すると信ずるからである。新らしき幼稚園に於ける意見は、所謂學課としてお膳立されたる知識を詰め込むといふ事は、子供に取つて望ましい事で無いと云ふフレーベル氏の意見と一致してゐる。第二の一致點は遊戯の教育的價値を認める事である。フレーベル氏は幼兒の遊戯の中に、自然生活の表現を見た。フレーベルの幼稚園は想像的模倣的遊戯を基礎としたる最初の學校であつた。彼の遊戯に關する觀念は、定められた體育的訓練をやつてゆく事を兒童に要求した古のギリシヤのそれとは、甚だ異つてゐた。フレーベルと新幼稚園とは第三に自己活動による自己表現を信ずる點に於て又一一致してゐる。併し我々は又或る點に於ては彼の學說實際と意見を異にしてゐる。これ彼の時代より世界は長足の進歩をなして、教育が複雑に多方面になつた爲である。併し我々は彼の考が當時の教育學說及び實際に著しき進歩の跡を残してゐる事を記憶せねばならぬ。彼は吾が幼兒教育の進歩を可能ならしめたる第一の開拓者である。今日我々が彼と學說を異にする所があらうともそれは問題でない。我々はあの兒童の壓迫されてゐた時代に猶兒童と共

に生活し、兒童を愛し、兒童の心をよく理解したるフレーベル氏に對し當然拂ふ可き尊敬を惜むものは決してない。

今日の幼兒教育に廣く影響を及ぼせる第二の開拓者はマリア・モンテソリー女史である。女史は嘗て伊太利に於て白痴教育に従事してゐた。女史が始め自分の學校に於て實行した所の試みの結果は、恐らく女史の通常兒に關する結論に影響してゐたであらう。女史の教育學説は、同じく白痴教育に従事してゐたイターやセーガンの著書に基礎を置いてゐる。女史はモンテソリー法と題する著書に於て、自分の學説にはセーガン・イターの影響が、あるといふ事を云つてゐる。従つて女史は健康なる通常の子供の精神力の子供の才能興味を幾分誤つて判斷する所があつたと見ても差支へない。女史はフレーベル氏と同じく自己活動を信じた。此の點に於て最近幼兒教育者は女史と意見を同じくしてゐる。女史は自由は人を獨立させ、且つ役に立つ様にさせると信じた。併し女史は此の獨立を餘りに重んじ過ぎた結果子供にすべての事をやらせて、斯くする事が、子供に經濟的なりや否やをも顧みなかつた。女史は社會的補助團體生活の相互補助の觀念を認める事には失敗してゐる。併し女史は子供の世話を焼き過ぎると子供の個性を滅してしまふと言つてゐるのは至言である。女史は

我々は常に子供の面倒を見過ぎる。これは子供に對して奴隸的な行爲たるのみならず危険な事である。何となれば子供に必要な自發活動を妨げるからである。……爲さざる所の子供は如何にして爲すべき

かの方法を知らないといふ事を吾々は考へても見ない。

と云つてゐる。幼児教育に關する最近の考は、子供が自分で出来る事は子供にさせて、他からしてやる事を少くせねばならぬといふ女史の言と一致してゐる。

モンテソリーの幼稚園に於ては先生は觀察者である。これはフレーベル幼稚園に於て先生が中心になつて指導をするのと明なる對照をしてゐる。モンテソリーはフレーベル及最近教育者が、遊戲の價値を認めたと反して之を認めなかつた。教具は感覺練習の爲に作られてゐる。女史の全教育法は次の句が、例證する如く感覺心理學を基礎としてゐる。

即感覺教育に重要な事項は所を選ばず感覺を離して孤立させる事である。

と。新幼稚園は感覺を孤立させ練習によつてこれを訓練する事は試みない。寧ろ子供に適當なる感覺經驗を與へて、これを通して適當なる感覺反應が典型的な生活状態と結び附く様にしてゐる。教具は教師の代りをしそして女史自身言へる如く自己矯正器である。こゝに又女史は恐らく通常兒の才能を理解しない。子供は自分が必要を感じない事を繰り返し繰り返す事に決して満足しないだらう。従つて若しやつたとしてもそれは先生の強制によつて機械的になされたのである。教具で遊ぶ事は固く禁じられてゐるモンテソリーは「若し私が子供は遊ぶ事を必要としてゐると認めるならば私はこれに適當なる教具を與へたであらう。併し私はさうは認めなかつた」と公然と云つてる様に引證されてゐる。

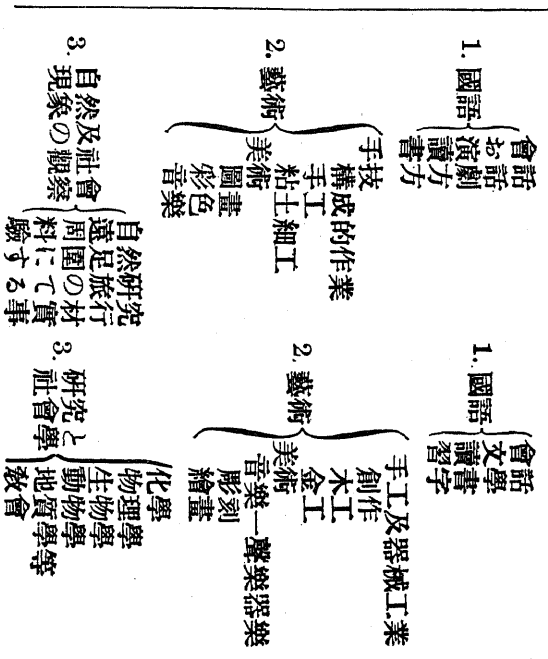
併し今日の心理學は幼兒に遊戲の必要なる事を論證してゐる。グルース氏は子供は若いから遊ぶのでなく遊ぶ爲に若いのであると云つてゐる。最近の教育者はモンテソリーが教育に新しき貢獻をしないと云ふ意見に一致してゐる。キルバリーク博士は女史の最も大なる貢獻は教育の科學的概念を力説したる種と田田の實驗的利用を力説した種とあると云つてゐる。

就學すべき兒童の天性 就學すべき兒童の活動

1. 身體的
- a. 大きく簡單なる基礎的筋肉の統御を得る事
 - b. 大なる可塑性の時期
 - c. 速なる腦の生長期
 - d. 弱き循環器
 - e. 他の機能に比して小なる心臓
 - f. 容易に疲勞する事
 - g. 永久齒發生の時期
1. 身體的
- a. 走る事
 - b. 飛ぶ事
 - c. 木登り
 - d. 物を投げる事
 - e. スキツプする事
 - f. 蹴る事
 - g. 捕へる事
 - h. 材料の取扱
 - 2. 精神的

課程

人生の技能



1. 弱き消化器

2. 精神的

a. 強き想像生活

b. 興味が長く續かぬ事

3. 社會的

a. 社會的調和の基礎の缺乏(作法、行儀、理想)

b. 著しく自己的なる事

c. 社會的本能の目覺め(團體要求)

a. 經驗を話す事

b. 物を作る事(構成的仕事)

c. 外圍の探究

d. 裝飾を愛好する心の表現

3. 社會的感應

a. 人と事を共にすることを楽しむ

b. 力が正をなす

c. 一人で仕事したり遊んだりする

d. 不公平なる振舞をなす

(信)社會奉仕

美術學樂技
文音競技
ダンス

體生活
團體生活
其他に關與
政治的
共同生活
社會的

4. 樂養
娛樂

5. 社會適應

體育
歌と遊
リズム
活動的

4. 遊戲
有
活動的

5. 社會的接觸

室內場
家庭動樂會
家庭動樂會

此の綱目は最も短い形式で學校の初年級の爲の基礎を與へてゐる。子供は何を以て出發點とするか、

又子供が學校に入る時その啓蒙の程度及子供は如何なる興味を持つか、その天性は如何、——之等は教師が豫め心得てゐて考慮すべき事柄である。これを基礎として課程が定められて知識と技能の基礎を建

て、そのあらゆる教育は人生の準備として與へられるのを目的とする。

幼稚園には四歳から八歳までの子供が来る。兒童は種々雑多の経験を積んで生きて行く。それで之等の経験から、將來の進歩に價值ある、子供に適した経験を撰擇するのは幼兒教育者の仕事である。子供をして自分の力によらしめる所の之等の経験は、子供に自分で判断する事、自分で決断する事を要求する有らゆる行動が、教師によつて指圖され、教師によつて正否の決定を見るならば、如何なる組織の教育も、自立的な自信ある個人を作る事は出来ぬ。是等の経験が撰擇される標準は子供——即ち子供の天性と、その天性が高き完成されたる域に達し得る如き條件である。幼稚園の初期に子供はそれ迄無器用に使用してゐた大きな簡単な基礎的筋肉の共同作用の統御を得なければならぬ。此の子供の天性に關する知識は保姆をしてフレーベルの恩物を擴大し、他の材料の性質を代へて幼稚園のプログラムを作成せしめたのである。

若し有らゆる機關が同様に發達するならば各機關は大人の重さの三分の一に達するであらうといふ事はタイラー氏によれば眞理ではない。消化機關は他の機關より進んでゐる。併し腸の内面は弱く感じ易い。此の事實が、子供をして、よく消化された食物を取り、一日に三回以上食を取る事を必要ならしめるのである。十時に一きれのパンとバターと一杯の牛乳を與へられても其爲に子供は晝食が拙くなる事は無い。又此の時期には子供の心臓は他の機關に比して小さい。此の小さい心臓が、比較的に大きい身體に

その筋肉は運動を切望しゐる身體に、血液を送る事を要求されてゐる。此の爲に子供は、どんなに肉體運動が楽しくても疲れ易いから朝の間に休息の時間を取る事が必要になるのである。子供は小さい臥床に横になつは此處ですつかり休む。時としては寢込んで仕舞ふ。少し経つて子供は此の休息から醒め、新に活動を始める元氣を回復する。

小學校に入る頃の子供は話をする事が、好きで、物を作つたり、裝飾したり、又よく不審を尋ね、又よく遊ぶものである。子供は家の事に自分の愛するものや、自然や、又他に聞いた話などに就いて話さうとする。又物を作りたがる。そして棒に釘を打つたり家を建てたりして玩具を作つてゐる。子供が、體を飾る事を好むのは花や葉や羽毛などを身につけて自分を飾るのもわかる。又子供に好奇心が強い。子供は如何してそれが出来たのか、如何してそれが斯う成るのだから、知り度い爲に多くの物を切れぐに裂いたりする。そして最後に子供は遊びに忙しい生物である。終日走つたり飛んだり、跳ねたり、周圍の大人の眞似を爲たりしてゐる。

我々が、最初に考慮すべき事は、一方には子供にとつて望ましき經驗と習慣で、他方には、是等の經驗習慣から、將來の訓練の爲に價值ある者を吟味する所の標準である。第二に考慮すべき事は、此の經驗と習慣とをとして此の話好き、製作好き、裝飾好き、遊び好きで、好奇心の強い子供とを、如何にしてよく調和させるかの手段である。此の方法が課程である。課程は子供の自然的傾向が、これによつて彼

に適し社會の要求に合する様な活動へ向ふ刺激を受け、その方向を選定する様になる所の動作力である
 幼兒教育は正しき生活の習慣を養ひ、社會的協同と個人的責任とを發達させ、自發と豊富なる實力を
 刺激し、且團體生活の日々の問題を解決する才能を啓發する事を求める。それは經驗を擴め、了解し、
 之を組立てる好機を與へる。技術と理解の方面では、言葉遣ひの誤を正す様に子供を習慣づけリズムの
 感じを刺激し、發達させ、歌ふ聲の統御を與へ、最善の文學音樂美術に對する欲望を生せしめ、斯くの
 如くして、心の中に價値ある理想を築かしめる。課程をやる所の方法は、子供が、自己を表現する所の
 手段・行動、即ち初子供感情思想像を考に入れねばならぬ。是等の種々の表現を實現するものは言語
 繪畫、音樂、手工、遊戯である。そして是等は教育の決勝點たる人生の技能の達成に導かれねばなら
 ぬ。

(未完)

誤

正

五六頁	三行	ケリノ	ケリノ
五七頁	一行	ある。かゝる材料	ある。を省く。
五八頁	十一行	女史は社會的補助團體生活	社會的補助團體生活
五九頁	十五行	公然と云つてゐる様に	公に
六二頁	五行	る有ゆる	る。有ゆる

注意